

多職種合同研修会の参加報告。

むつ下北薬剤師会 広報・情報委員会 細川 智弘

令和8年2月28日の土曜日に、プラザホテルむつで行われた多職種合同研修会に薬剤師として参加してきました。

この会は、「もっとつながる、在宅医療と救急医療～在宅療養者の災害対策について～」という演題で行われました。

グループディスカッションでは2つのテーマでディスカッションが行われ、ケアマネジャーや救急救命士の方や行政の方とディスカッションをしました。

1つ目は災害時に備えておくことという題名で、救急救命士の方からの発表がありました。私が所属したグループでは水や食料などの一般的なものだけではなく、お薬手帳などがすぐに見つけられるようにすることも必要だとの話がありました。私は薬剤師として、お薬手帳の意義とともに東日本大震災の時に薬手帳の存在が大変有効だったことも伝えました。

2つ目は2025年12月8日に起こった青森県東方沖地震の際の対応やその後の課題などについての話がありました。私の勤務していた薬局では、一部の薬品が落ちただけで大きな被害はありませんでしたが、むつ病院に勤務していた方や救急救命士などむつ病院への対応をしていた方々の話を聞くととても甚大な被害があったのだということを改めて認識することができました。スプリンクラーの破損で入院している患者さんを移動させる時に、色々な情報が錯綜しどの情報が最新の情報なのかが把握しにくくなったことや、患者さんを移動させるドクターカーや救急車などへの搬送の際の話など、最前線の現場での出来事を聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、看護師さんやヘルパーさんからは患者さんや利用者の方々が地震で不安に思う気持ちに寄り添うように意識をしたという話もありました。また、この会に参加していた方々の共通の懸念として、災害時の感染症対策についての話題が多く上がりました。薬局としては医療用医薬品やOTC医薬品の在庫の確保を始めとして、多くのことに対応しなければいけないと強く感じました。

この研修会には薬剤師以外にも様々な職種の方々が出席されていました。この研修を通じてその方々に、薬剤師としてどういったことができるのかということを知っていただく一助になったのではないかと感じています。今後も多職種の方にも積極的に薬剤師の存在意義をアピールすることが大事であることを再認識できました。今後もこういった研修会に参加することで薬剤師の存在意義を伝え、少しでも患者様や利用者様の役に立ちたいと思います。